

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

松谷英子さんが厚生省を相手取って、原爆症認定申請の却下処分を取り消しを求めた「長崎原爆松谷訴訟」の控訴審で、十一月七日、福岡高裁は、一審判決に続いて松谷さん完全勝訴の判決を下した。

裁判で、厚生省は「DS八六」と呼ばれる原爆の放射線の線量推定方式を絶対的尺度として、放射線の影響の有無を判定できると主張してきた。「DS八六」とは、放射線影響研究所(元ABC)の日米共同研究プロジェクトが一九八七年に発表した原爆線量再評価最終報告書の中で、主としてアメリカ側がコンピュータ計算によって広島・長崎原爆の放射線量を理論的に推定したものである。

広島原爆については、「DS八六」が発表された後にも、被爆した建造物や岩石に残された放射線の痕跡を調べて、原爆によるガンマ線と中性子線を測定する研究が精力的に行われた。

裁判では、放射線医学を研究してきた京都大学名誉教授の上野陽里さんが「DS八六は実測値との不一致が問題になっており、放射線科学の研究者は今後起こるであろうDS八六の変更を予測しなければ論文自体の評価が下がる状態になっている」という意見書を

広島・長崎原爆の放射線量

沢田昭二

提出し、これに対して、厚生省側証人が「不一致は細部のものでDS八六の評価線量を大きく替えるものとはならない」という反論の意見書を提出した。福岡高裁は、上野さんの指摘に注目して今年二月の結審を延期し、松谷さんの弁護団に説明を求めた。

そうした中で、私は原爆放射線のこれまでの測定値を系統的に解析する必要があると感じ、カイ自乗フィットと呼ばれる方法によって、広島原爆の放射線の測定値を解析した。その結果、上野さんが指摘したように、ガンマ線も中性子線も「DS八六」の推定は、爆心から一キロメートル以内では過大評価、一キロメートル以上では過小評価になり、遠距離になればなるほど「DS八六」と実測値との食い違いが多くなる。特に中性子線については、遠距離で重要になる、ゆっくりに減少する成分があることを見つけた。これを見落とした「DS八六」を遠距離に適用すると、大きな過ちを犯すことになる。私はこの結果に基づいて、上野さんの意見書を支持する意見書を福岡高裁に提出した。

これに対し厚生省側は、「長崎では測定値とDS八六とは一致している」という反論をしてきた。そこで長崎原

爆についても同様の解析をしたところ、やはり、近距離では「DS八六」の推定値は過大評価、遠距離では過小評価であること、中性子線にはゆっくりに減少する成分があることが示唆された。すでに結審の後であったが、福岡高裁はこの結果も意見書として採用してくれた。

高裁判決では、「DS八六の放射線量の計算値は、広島、長崎の両市で、中性子線量の測定値と比較すると遠距離になるに従って測定値を下回り、系統的な食い違いがあり、この不一致の原因は説明されおらず未解決のまま残されて...DS八六をそのまま適用することを躊躇させる要因となる」と述べている。

私の解析結果は、去る一〇月、放射線影響研究所で開かれた「DS八六」の見直しを検討する日米合同の線量評価ワークショップでも報告した。このワークショップでは、広島原爆の爆発高度は熱線による影から推定した五八〇メートルよりさらに百メートル前後高く、爆発威力も従来の推定より大きいことが指摘された。こうなると、放射線の爆心からの距離による強度変化も根本から検討し直す必要がある。こうして、原爆投下から半世紀以上を経た今、なお、総合的な放射線量の再評価と放射線の被爆者に与えた影響の研究が続いている。(元白屋天字名誉教授)



「大石さん、みんなでやったよ」奈良ろう学校文化祭

ゴジラもベン・シャーンも 奈良県立ろう学校文化祭

怪物に似た赤と黒の大きな水爆の原子雲の前に立つゴジラ...。十月十八日、十九日奈良県立ろう学校の文化祭での中学部三年の展示発表はおおにぎわいでした。

今年五月、修学旅行で第五福竜丸展示館を訪ね、大石又七さんの話を聞いた三年生全員が、「第五福竜丸とゴジラ」をテーマにとりくみ、「その関わりを通して私達なりに平和について考えたい」と展示発表した。第五福竜丸事件とそれが与えた影響、水爆実験

と事件の重大さを訴えるとともに、事件をきっかけに制作された映画「ゴジラ」の誕生、ベン・シャーンの「ラッキードラゴン」の制作などをみんなで調べ発表しました。

展示館、焼津市歴史民俗資料館、東映太秦映画村、わかやま市民生協などから資料の提供を受け、展示パネルを作成、詳細な資料集を三冊も作り上げました。教室の壁面いっぱい「第五福竜丸について」「事件の概要と年譜」「船歴」に続いて話題の「エンジンの引き揚げ」の大きなパネル、原水爆実験の回数表示と、マッチ棒でその回数を表すと...との労作もあ

ります。「第五福竜丸事件が与えた影響について」のパネルについて「ベン・シャーンと第五福竜丸」「ラッキー・ドラゴンシリーズ」のカラーコピーも展示。

メインの展示は「ゴジラ」。「ゴジラの成長過程」から円谷英二氏の生涯とゴジラ誕生の経緯と意味、年譜などを図解、ゴジラのぬいぐるみ作り、参加者に強烈にアピールしました。

展示館には担任の先生から文化祭の様子を生き生きと伝える写真や文集が届けられ、修学旅行で訪れた一人ひとりの船と大石さんの話を見つめた瞳がふたたび夢の島の第五福竜丸によりがえるようでした。

(三面よりつづく)る。優しさの奥に、善悪に対する強い意思が秘められているのかもしれない。

その後の、まぐろ塚の署名と募金運動は、全国広範囲から大勢の人が賛同と激励の手紙を送ってきただけで、いまその返事に行った神奈川学園女子校の生徒からは、校長先生や学年の先生に了解を貰い「内容を理解しないで署名や募金をされても、それは意味のないことだ」と、みんなで考えながら活動している、と嬉しい手紙も届いた。

平和への道しるべが、何としても実現できるよう頑張るつもりだ。(元第五福竜丸乗組員)

第五福竜丸展示館を自学して

焼津東小学校六年二組 松本都乃

：私はあまり船に乗ったり、見るきかいがなかったもので、とってもよかったです。すぐにエンジンをつけると、海を走りそうな感じがしました。いろいろ「何をするといいところだろう」とか「どうやって使うか」などがもつとはっきりと知れたかったです。館長さんみたいな人がいらした、第五福竜丸のメッセージがきこ

えてきそうな感じがしました。もう船はさびて走れないけど、みんなにビキニ事件を知らない人たちにこれからも見てもらったりしていけばいいと思う。いい思い出になったと思います。

焼津東小学校六年三組 遠藤圭太

：福竜丸のことがよくわかりました。原爆のこわさがよくわかりました。福竜丸のことがよくわかりました。福竜丸のことがよくわかりました。福竜丸のことがよくわかりました。

にでているなあと思いました。船の上、すこく広かった。ぼくはこんな広いところに死の灰がふり積もったのかすごい量だな、すごい被害だな、屋根のあるところがたくさんありその中に入ればよかったのになと思いました。乗組員の「日本へまぐろを持って行くんだ」と思いがよく伝わりました...。(修学旅行で来館した焼津東小学校六年生からうたぐさんの作文がおくられました)

過去からきちんと学ぶこと それが未来への私たちの責任

水久保 文明

「現在」という言葉を少々哲学的に言い換えますと、『過ぎ去った過去と来るべき未来の接点』ということになります。そういうふうと考えてみますと、生きている「今」を漫然と過ごしてしまふことに、抵抗感を感じないわけにはいきません。

とりわけ、二一世紀までカウントダウン状況に入ったこの時期、その意味合いを改めてきちんとつかみ直したいと思えます。しかもこの二一世紀は、千年単位で見た場合、三千年紀の始まりということでもあります。

そういう立場から、これまでの人間の歴史を振り返り、一千年後にも人類が、いや地球上に生きとし生けるものすべてが生き残るために、私たちが何をなすべきか、じっくりと考え行動したいものです。

一つの国を支配するには、三つ

の分野を制すればいいと言われます。一つ目は、司法です。どうしてなのか？ 説明の必要はないでしょう。これが自由自在になれば何をやっても怖くない、という無法・違法のやり放題状態が生まれます。

二つ目は教育です。この国の支配者たちも、そこに狙いを絞って「改革」という耳ざわりのいい言葉を操って、着々と進めてきました。未来を担う子どもたちを、自分たちの都合のいい人間に仕立てあげようとしているのです。日の丸・君が代の押しつけなど、その典型と言えます。

そして三つ目はマスコミです。社会が発展すればするほど、「ペンは剣より強し」という言葉を借りるまでもなく、マスコミの影響は強まります。いまそのマスコミが、とりわけジャーナリズムが少々危うい状況になっていきます。改めて、戦後ジャーナリズムの原点

「戦争のためのペン、カメラ、マイクは持たない」を確立させる必要があります。

いま日本というこの国は、戦前のいつか来た道を想起させる危険な兆候がたくさん表れています。前述の三つの分野もそうですが、昨年来からの沖縄の米軍用地問題は深刻です。米軍が県民の土地を使用するにあたって、それまでは自治体に権限がありました。それを剥奪し国の直轄下に置き、それを剥奪し国の財産を守るべき国が、それを取り上げてしまふという暴挙を、平然と行っています。

そしてその延長線上に、新ガイドライン（日米防衛協力のための指針）問題があります。この新ガイドラインは、米軍の戦争行為に自衛隊が無条件で参加しなければならぬ、戦争マニュアルそのものです。これまでの規定は、自衛隊の出動は日本周辺の有事に限っていましたが、場所の特定をはずし、何時でもどこへでも自衛隊が出動できるようにしたのです。しかもこんな重要な問題にもかかわらず、国会論議もないままに。政府は、この新ガイドラインを

実効あるものにするために、国内法の整備を進める、と表明しています。それはすなわち、有事立法そのものなのです。

一九八五年五月八日、ヨーロッパの40回目の終戦記念日にあたるこの日、西ドイツ（当時）のヴァイツェッカー大統領は、同国連邦議会で演説を行いました。その内容は、ナチスを許してしまつたドイツの責任を明らかにし、同じ過ちを繰り返してはいけないことを強調する歴史的なものとなっています。合わせて「過去に目を閉ざすものは現在に盲目となる」と述べ、現代の為政者に警鐘を乱打しました。

第五福竜丸のエンジンを、船体とドッキングさせる取り組みが始まりました。この運動は、「まぐろ塚」の建設も含めて、過去をしっかりと見つめることにより、未来に同じ苦しみをもち込まないという、地味ですが崇高な事業でもありません。その意味において、二つの事業は成功させなければならぬと思います。

過去にも、現在にも、そして未来にも、カッと目を開いて。
(日本ジャーナリスト会議会員)

吉永小百合さん

大石 又七

一九九七年十月二十一日、大田区田園調布・嶺町文化センターには、三百人を越す人達が前もって配布された入場整理券を手にして集まった。女優・吉永小百合さんの原爆詩の朗読を聞くためだ。近隣四地区の文化センターと利用者の会がもよおした「平和への祈りをこめて」の集会は、「ふるさと」「原爆許すまじ」などの女性コーラスで始まった。

そして次の長崎の被爆者・米田チヨノさんの証言が始まる合間に、司会者は私のまぐろ塚十円募金と署名が受付で行われていることを紹介してくれた。私が頭を下げると会場からはたくさんの拍手が起った。

チヨノさんの被爆体験は、地獄そのものだった。最前列にいた私の後ろからは、証言のたびに悲鳴にも似たざわめきが起こっていた。お話は辛いことだろうがやめないうで下さい、繰り返しくりかえし訴え続けてほしい。

一〇分ほどの休憩の雑音がびたりと止まり、脇の入り口から吉永小百合さんが入場してきた。思ってたより小柄で顔も小さく感じた。しかしととのった顔立ちに、ぬれているかのように光ってかがやく瞳には本当に見とれてしまった。みずみずしさが指の先までにじみでていて透き通るように見えた。

吉永さんは静かな口調で、広島の原爆を熱心に勉強した地方の小さな学校の生徒たちに招かれて出掛け、そこで子供たちの美しい目に触れた感動を話した。話は吉永さんの人柄を思わせた。

詩は、静まりかえった会場にしみわたるように流れた。

時 三吉 「にんげんをかえせ、ちちをかえせ、ははをかえせ」
さすがに大女優、言葉がはつきりしていて、きちんとした間と感情がひしひしと心に伝わってきた。吉永小百合さんが見られる、詩が聞けると一週間前からそわそわしていたうちのお母ちゃん、私のす

ぐあとに店を閉めて会場にきているはずなのに姿が見えない。急用でもできて来れなくなったのかなと、帰り支度で受付までくると、所長さんはじめ皆が大きな声でまぐろ塚の署名と募金をしてくれていた。あわてていこうとすると、うしろから「大石さんはおりますか、吉永さんがお呼びです」。まさか、俺のことか。おそろおそろ招かれるままに控え室に行ってみると、あの美しい顔が笑顔で私を迎えている。私はいい年をしてぼーっとしてしまった。言葉も出せないでいると、吉永さんは「さきほどは済みませんでした」と言った。

会場の受付にいるとき、私は司会者に冗談まじりで、吉永さんにお会いなどは出来ないだろうなあと、口走っていた。司会者はそのことを、開演前に吉永さんに伝えていたのだ。真っ白のドレスから、黒の洋服に着替えて立っている吉永さんの前で、私がかもたしてると「ビキニ事件のことはよく知っています。まだ小さかった頃、久保山さんの死がとてもしョックでした。私が原爆詩の朗読をするようになったのもその事が一つのきっかけなんです」と言った。

原爆のことだけを思っているのかと思っていたので、ビキニとか久保山さんと言う言葉は耳にして、急に身近な人に感じられた。

私も良い機会なので、吉永さんに思い入れがあったことを話した。「NHKが、私の出版した『死の灰を背負って』という本を、朗読と言う形で放送したことがあるんです。それは『又七の海』と言うスペシャル番組で、その時の朗読を私は吉永さんに、と担当者に話したんです。吉永さんは、夢千代日記とかビキニの海は忘れない、などの朗読もして核兵器や平和問題に関心を持っておられる方のように言うのと、又七の海は漁師の男の世界の話だから、菅原文太か北村……」と私がつまっていたと「和夫さん」と吉永さんが付け加えてくれた。「そうなんです、それで北村和夫さんに決まっただようです」。吉永さんは、ここにこしていた。

とかく、スポーツや芸能界は、お金儲けと自分のことしか考えない人が多いという。そんな中であって、一番かよわそうに見える吉永さんが、ボランティアで平和問題に力を尽くしている(四頁につづく)